骨髄バンク
ニュース
骨髄移植推進財団

1993年5月1日発行
(通巻2号)
No. 1

発行・財団法人　骨髄移植推進財団
〒105　東京都新宿区新宿1－29－
TEL　03 (3355) 5041
FAX　03 (3355) 5090

待望の骨髄移植第1例が実施されました。

平成5年1月28日、公的骨髄バンク事業による、初めての骨髄移植が実施され、引き続き、2月に第2、第3例目、3月に第8例目までの移植が行われました。今後も次々に行われる予定となっています。

1例目の患者さん（小学生）の御両親とドナーの方から、移植（骨髄提供）直後に次のようなコメントが届いています。

両親：

私達の息子にとって幸運にも適合者がみつかり、また骨髄移植が出来ると聞いた時は本当にうれしく思いました。

見ず知らずの方の善意によって骨髄液を提供していただき本当に感謝しております。

息子共々お礼をいわせていただきます。

本当にありがとうございました。

平成5年1月28日

ドナー：

今、私は、ほぼ健康な体を持って、幸せな生活をしている。

別に何の取得のない私でも、健康でいることだけで病床で難病と必死に戦っている方を救う手助けが出来ることを知った時は、迷うことなく骨髄バンクに入る決心をしました。　バンクに登録するには何処へ連絡すればよいの分かりませんでしたので、看護婦をしていた妻（当時は、婚約中）に調べてもらい平成4年7月7日に、仕事を少々さぼって登録を済ませました。

HLAが適合する確率を考えると、まず合う事はないとは思いましたが、心の底でどうか合いますようにと手を合わせました。

最初は協力してくれた妻も、適合したと判ると、去年おきた事故を考えてか出来れば止めてほしいと言い出だしましたが、最終的には、私の気持ちを理解してくれました。もちろん両親も心から賛成というわけにはいきませんでしたが。

健康診断を受けて自分の健康を確認できたことは、得をしたようにも思います。私の骨髄幹細胞の移植を受けた方が、少しでも快方へ向かってくれたらそれだけで私はしあわせです。

そして、もっともっと大勢の人が、バンクに登録されてひとりでも多くの患者さんを救うことができたらと願います。

最後に、骨髄移植入院の為に迷惑をおかけした会社の方々に、御詫びすると共に、御礼申しあげます。

平成5年1月28日

骨髄移植後の主な問題。

○肝臓の静脈閉塞症を発症すると死亡の原因になります。

○移植された細胞による患者の組織への攻撃反応は、軽いものを含めると、70～80％の患者でおきます。それを予防するため免疫抑制剤が使用されますが、血縁者間移植に比べ非血縁者間移植は、いく分この頻度が多くなっています。

○ウイルス感染による肺炎も移植後大きな問題です。各種抗ウイルス療法が行われています。その他、一般の細菌による感染症を生じます。

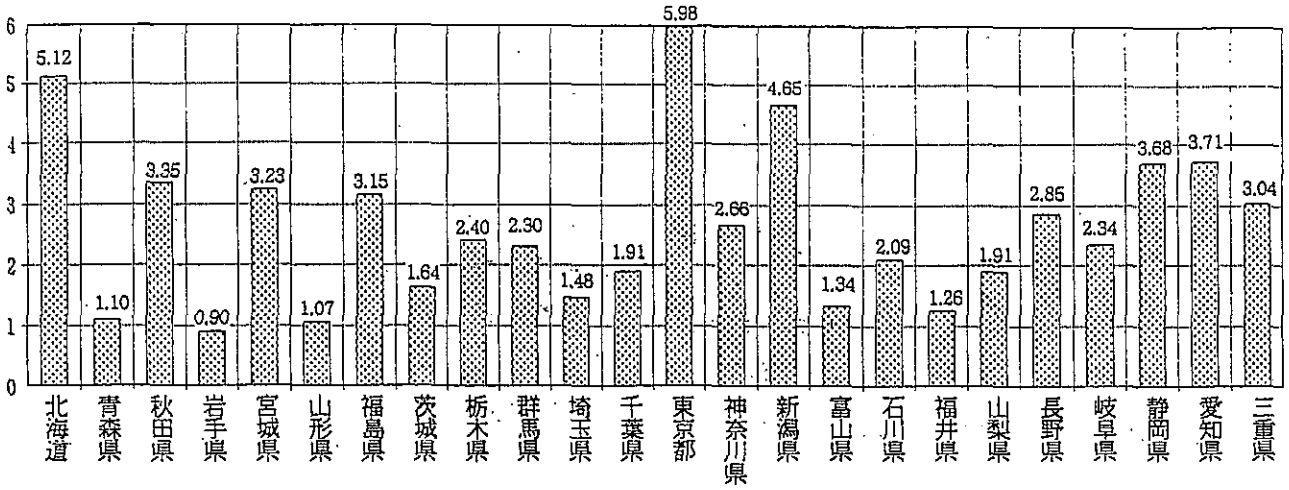
○移植された骨髄は、一般には2～4週間で患者さんの骨髄に生着します。
しかし、時に充分に生着しないこともあります。

○白血病の再発もおこります。

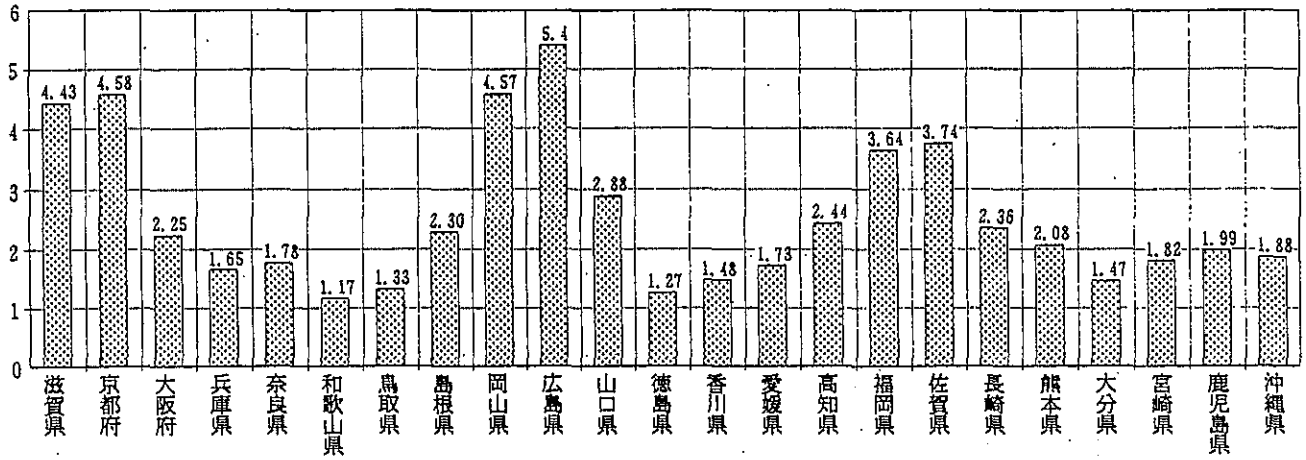
これらの状態を乗りこえた患者さんが、長期生存に至ります。現在のところ、急性白血病で約50％、慢性白血病で50～70％、重症再生不良性貧血で約70％の患者さんが元気になられます。移植が行われるまでは、5年以上生存される方は約10％であったことを考えると、急速な進歩です。今後ますます、研究が進み、さらに成績は向上することでしょう。

骨髄バンク提供希望者登録状況（H4年12月末日現在）

人口1万人あたりの人数



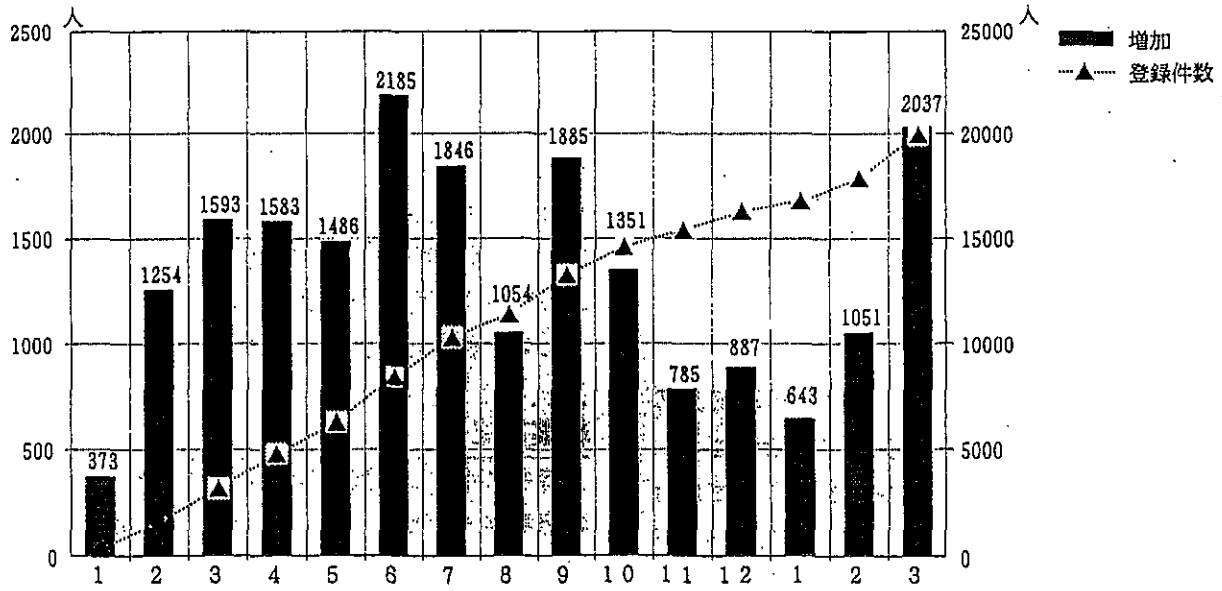
人口1万人あたりの人数



登録の推移

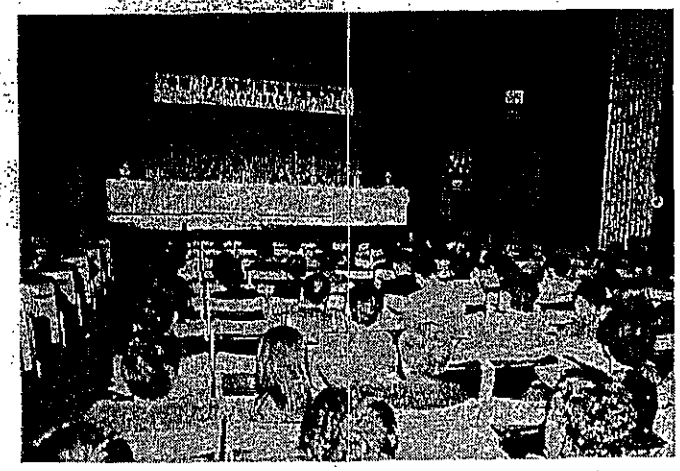
平成5年3月末現在でドナー登録数は20,018人になりました。皆様のご協力に対し、心よりお礼申し上げます。患者登録人数も828人となりました。

HLA適合ドナー候補者を持つ患者さんは235人。26人はドナーが最終的に決まり移植を待っています。（このうち9人は移植がすでに実施されました）。



骨髄バンク事業1周年記念全国大会が開催されました。

「骨髄バンク事業の発展をめざして」をテーマに、平成４年12月12日東京科学技術館サイエンスホールで、全国大会が開かれました。400席の会場は、ドナー希望者、患者関係者、学生、ボランティアの方々で満席でした、活発な討論が行われ、最後に大会宣言が採択されました。



大会宣言

昨年12月に待望の公的骨髄バンク事業が開始されてから早や1年の歳月が経過し、多くの関係者の粘り強い努力により、この11月末現在で約1万5千人以上のドナー登録を数えるに至り、骨髄バンク事業による初の骨髄移植も間近となってきました。

しかし、白血病等の難治性血液疾患は毎年６千人を越す患者を新たに生み出し、ほぼ同数の患者が毎年無念の死を余儀なくされている現実を直視するとき、現状に甘んじることなく、当面の目標である１０万人のドナー登録を１日も早く達成することが急務であるといえます。

さらに、骨髄バンク事業の円滑な促進を図るためには、骨髄移植推進の要請及び無菌室やマンパワーの拡充等、山積するこれらの課題を解決するとともに、何よりもドナーの負担軽減と、安全で適切な骨髄採取を実施する万全な体制の整備に努めていく必要があります。

まさに、これからが骨髄バンク事業の正念場であります。

「一人でも多くのドナーの善意と勇気ある行為が、一人でも多くの患者に希望の光を灯し、その命の輝きがみんなの喜びの輪となって広がる」ように、事業開始１周年のこの時にあたり、私達は心を新たにし、骨髄バンク事業の一層の推進に今後とも全力を尽くす決意であることを、ここに全国大会の名において宣言します。

大会宣言会場からの質問事項で多かったもの

○一次、二次検査の場所、日、時、をもっと便利にできないか。
○献血ルームにパンフレット、ポスターがないのは何故？
○患者側からドナーにお礼を言いたいが会えないか。
○少量の骨髄や血液で、移植はできないのか。
○移植は、いつごろから始まるのか

ホセ・カレーラス－世界のテノールーのチャリティコンサート

ホセ・カレーラスは、クラシックファンなら誰でも知っている世界三大テナーの一人です。

1987年、急性リンパ性白血病にかかり、翌年骨髄移植で復帰しました。本年3月10日世界中の白血病患者の救援を目的に、銀座王子ホールでチャリティコンサートを行いました。秋篠宮殿下、同妃殿下も御臨席なされました。

「急性白血病という思いがけない重病と診断されびっくりした。助かる方法は骨髄移植のみと宣言され、助かる確率は少なくとも、移植にかける以外ないと思い、移植を受けた。非常につらかったが、多くの方々の励ましの言葉が支えとなった。再び生命をとり戻し家族、友人の絆を尊いものと再認識した。現在は発病以前と同様完全に健康となり、仕事である歌うことと白血病患者救援を主に行っているが、将来は、後者のみを行なっていくつもり。日本とスペインは遠くはなれているが、白血病患者を助けるためにはいくらでも協力できる。」と熱い口調で話していました。彼は、1988年、ホセ・カレーラス国際白血病財団を発足させ、白血病の研究や医療のための資金援助、非血縁ドナー募集、患者家族との相談を主に行なっています。

今回のチャリティコンサートへの寄付金は、日本の骨髄バンクとスペインの白血病財団に等分に寄付されました。

コーディネーター養成開始

3月13日、14日東京の全協連ビルでコーディネーター養成研修会が開かれ、54人の方が受講されました。骨髄バンクが順調に稼働するにつれ、ドナー希望者と患者の橋わたしをするコーディネーターが足りなくなり、その養成が急がれていました。コーディネーターはドナー希望者に、骨髄移植、骨髄採取に関する種々の事がらをお話し、理解していただき、最終的にドナーになるかどうかを決定していただくまで相談にのる重要な役割をにないます。次回は今秋に開催予定です。

東北地区・骨髄バンクを知る集い開催のお知らせ

日・時・6月4日、5日（13：00〜16：00）
場　所・仙台市戦災復興記念館
主なプログラム

第1日　骨髄バンク事業の現状・ドナー登録状況
第2日　作家大石邦子さんの講演「生きること愛すること」・対談「命のきずな・骨髄バンク」

入場無料
問い合わせ：骨髄移植推進財団
Tel 03－3355－5041

ノーベル賞受賞者トーマス博士講演会

骨髄移植を世界で成功させたE．D．トーマス博士が来日され、財団主催で4月8日「骨髄移植の過去、現在、未来」について講演されました。歴史の重みをふまえ、明るい希望をいだかせてくれるお話しでした。

寄付についてのお礼

TBSで行ったダイヤルQ2サービスに65,000人の方々が参加して下さいました。大変ありがとうございました。寄付はパンフレットの充実にあてさせていただきました。また平成5年2月末現在の寄付件数は503件です。御協力に感謝いたします。

骨髄バンク紹介

骨髄バンクの中心ー中央調整委員会

中央調整委員会は、ドナー・レシピエント登録から移植までのコーディネート活動の調整指導を中心に担当する部分です。現在16人の委員が活動していますが、いずれも地域、施設を越えて全国から集まった骨髄移植の専門医です。この16人の委員が一つのテーブルを囲んで活発に討論している姿からは、米国映画「十二人の怒れる男」（別にけんかをしているわけではない）の一シーンが連想されます。

中央調整委員会の重要な役割の一つに非血縁者間骨髄移植の成績の科学的評価があげられます。民族的背景が欧米と異なる本邦では、欧米のアプローチをそのまま取り入れることには無理があり、我国独自のデータの解析により、非血縁者間骨髄移植の治療法としての位置づけ、その成績向上の為の研究の方向性を明らかにすることが必要です。この目的を果す為には中央調整委員会が最適の機関であり、その責任は極めて大きいと認識しています。

さて、私が骨髄バンクの仕事に加えていただいたのは二年前のことです。ある晴れた冬の朝、浅野教授に突然呼ばれて「ドナーのコーディネートのフローチャートと必要な議題、手紙を今日中に作るので手伝って下さい。」といわれ、目が点になった時からです。この時にできたのが、現在のコーディネーターマニュアル中の極めて細かく且つ明快な（？）フローチャートの原案でした。現在では、中央調整委員としてばかりでなく、地区調整員、国際部担当採取、移植病院担当医として、種々の角度からヨチヨチあるきをはじめた骨髄バンクをみつめて、喜びと同時に、これからの問題解決についての責任の重さを感じています。

最近、嬉しかったことは、第一回コーディネーター研修コースに参加して下さった私達以上に骨髄バンクについて熱意をもって考えている人達に出会えたことです。これからはこの方々も含め多くの人達の支えによって日本の骨髄バンクが大きく成長することを期待したいと思います。　　中央調整委員　岡本真一郎

編集後記

待ちに待った移植が開始されました。一人でも多くの患者さんが助かるよう全員最大の努力をしています。バンクニュースへの御意見、投稿がございましたら、財団事務局広報委員宛てお送りください。